

ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

3

カセゲーキンソ



世界文化社



世界文化大百科事典 《ジュピター》

3

セット商品につき分冊販売不可

発行所 株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel (262)5111 (代表) 〒102

発行者 鈴木 勤
編集 株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印刷 株式会社東京印書館
製本 中央精版印刷株式会社
製函 文京紙器株式会社
用紙 神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表紙 ダイニック株式会社

凡 例

この《世界文化大百科事典 ジュピター》は、現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして、項目の解説は、その記述内容が的確・敏速に把握できるよう、つとめて簡明・平易なものとしたが、各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け、一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し、総括的な理解が得られるようにしてある。また、カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し、内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

- 1 各ページに収録されている項目を、そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目、奇数ページには最後の項目の、それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし、促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し、長音〈ー〉は除いた。

東 京→トウキョ

ヨーロッパ→ヨロッパ

- 2 項目の見出しは、〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し 本見出し

げんじものがたり 【源氏物語】

エヌエイチケー 【NHK】

インキ [ink]

- 1) 国語読みおよびそれに準ずるものは、現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし、現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては、〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず 【沼津】⇒ぬまづ

- 2) 外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し、〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヅ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン (ベートーヴェンとはしない)

ベネチア (ヴェネチアとはしない)

ただし、外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ 【羅紗】

らっぱ 【喇叭】

- 3) 地名で、日本の行政区画および外国の国名・地域名山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは、検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか 【大阪(府)】

おおさか 【大阪(市)】

ミシシッピ(州)

ミシシッピ(川)

- 4) 中国・朝鮮の地名・人名は、原則として日本で慣用されている国語読みで示し、現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう 【河北省】 ホーベイ省

ふざん 【釜山】 プサン

もうたくとう 【毛沢東】 マオツォートン

ただし、国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用語のものはそれに従った。

シャンハイ 【上海】

ペキン 【北京】

メイランファン 【梅蘭芳】

- 5) 本見出しでは、かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し、外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ 【入れ墨】 刺青・文身とも書く。

ウイスキー [whisky]

ただし、原語のつづりでイタリック体は、植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ [Aloe]

項目の配列

- 1 かな見出しの五十音順に配列し、清音→濁音→半濁音の順とした。

{ しんくう 【真空】
しんぐう 【新宮(市)】
じんぐう 【神宮】

{ はい 【肺】
ばい 【蜚】
パイ [pie]

- 2 促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ じゅう 【銃】

じゅう 【自由】

- 3 長音の〈ー〉は音順から除外したが、同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん 【阿片】
アーヘン 【Aachen】

- 4 同音のものは次の順とした。

- a) 見よ項目→解説のある項目

あか 【赤】⇒色
あか 【垢】

- b) 普通名詞→固有名詞

じゅんし 【殉死】
じゅんし 【荀子】

- c) 固有名詞では地名→人名

- d) 町名などで同音の場合は北から南への順

- e) 人名などで同音の場合は生年の早い順

- 4 生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち、教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは、それにならった。ただし、生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

- 5 年代は、原則として西暦で示した。ただし、国内に関する記述の場合は、その項目の初出の箇所に年号を併記した。

- 6 外国地名の表記は、原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

- 7 外国語・外来語の表記については、〈項目の見出し〉に準じた。

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め、各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって、五十音順による項目配列の当該の位置には、その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇 宙

すべての天体とそれを含む全空間、いい
かえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

- かなづかいは、歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き、すべて現代かなづかいを用いた。
- 送りがなは、原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。
- 漢字は、原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし、固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い、()の中にその読み方をひらがなで示した。

人口統計の数値

- 日本の都道府県市町村の人口は、自治省行政局編《昭和15年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし、10,000以上の場合は100の位で、10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。
- 都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業、鉱業・建設業・製造業などの第2次産業、商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は、総理府統計局編《昭和150年国勢調査報告》によった。
- 外国およびその地域・主要都市の人口は、主として国際連合編《人口統計年鑑1972年版》によったが、他の資料によって補ったところも多い。

地 図

- 日本の都道府県と8地方、世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け、また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。
- 地図の記号は一般の地図記号に準じているが、都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。
- 都道府県と独立国の地図の地貌表現は、等高線段彩で示した。しかし、全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり、その数値は各図中の等高線上に記入してある。
- 地図中の地名表記は、本文の地名表記の基準に従った。

符号・記号

解説文中に用いた、おもな符号・記号は次のとおりである。

⇒ 指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん 【関西弁】 ⇒ 方言

しょせき 【書籍】 ⇒ 図書

サイン ⇒ 正弦

ジンフイズ ⇒ カクテル

→ 解説文中または末尾につけて、参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は、
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの

あいいろ 【藍色】 ……(解説)……。→ 色

* 解説文中の用語の右肩につけて、その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん 【安山岩】 中性の火山岩^{*}。

いほうじん 【異邦人】 カミュ^{*}の小説。

〔 〕 〈 〉 解説文中に中見出し・小見出しを施し、解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合

【名称・歴史】

【生活】

【衣食】

【住居】

【風俗習慣】

【音楽】

貨幣の場合

【種類】

【制度】

【歴史】〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉 引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は、正義と ……

戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり、 ……

《 》 書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》

《カルメン》

() 語句の言い替え・補足説明や、年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)

燃料ガス(都市ガス)

慶長年間(1596～1614)

1872年(明治5)

() 読みがなであることを示す。

石川啄木(たくはく)

伊豆(いず)半島

香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では、次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし、必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリマイクロン	cal	カロリー
μ	マイクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm ²	平方センチメートル	W	ワット
m ²	平方メートル	kW	キロワット
km ²	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm ³	立方センチメートル	km/秒(分, 時)	速さ
m ³	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	°' "	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁 田中一光

特別大項目目次 第3巻

家庭裁判所	44 (ページ)	名古屋高等裁判所長官	内藤頼博
歌舞伎	78	国立文化財研究所	浦山政雄
鎌倉時代	104	共立女子短期大学講師	鈴木英雄
歌謡曲	140	国立音楽大学助教授	徳丸吉彦
癌	198	国立がんセンター	木村椿代二
観光	212	日本観光協会	猪爪範子
漢詩	218	二松学舎大学名誉教授	橋川時雄
漢字	220	中国文学者	藤堂明保
官僚制	275	早稲田大学名誉教授 早稲田大学教授	武田良三 佐藤慶幸
企業合併	298	青山学院大学教授	原 豊
技術革新	316	青山学院大学教授	原 豊
基本的人権	374	弁護士	正木ひろし
教育	413	和光大学教授	中野 光
共産主義	432	芝浦工業大学助教授	伊藤昭一郎
ギリシア神話	490	東京大学助教授	久保正彰
ギリシア哲学	492	東京教育大学教授	村治能就
キリスト教	500	青山学院大学講師	小田垣雅也
銀行	532	一橋大学教授	小泉 明

か

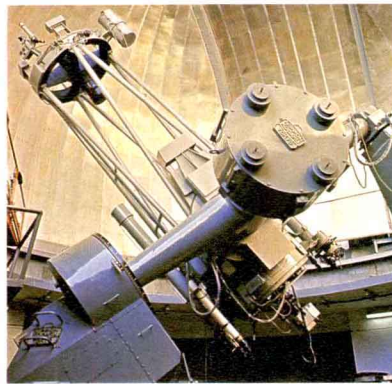
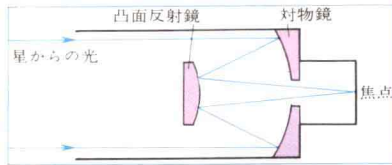
カセグレンしきぼうえんきょう 【カセグレン式望遠鏡】 対物鏡の後ろに目標の物体の像を結ばせる方式の反射望遠鏡。対物鏡の焦点の手前に小さな凸面(とつめん)(双曲面)反射鏡を置き、対物鏡の中心に小孔をあけてその後方に像を結ばせる。焦点距離の長い(したがって倍率の高い)わりに、望遠鏡の筒を短くできるので、大口径の天体望遠鏡に広く用いられている。→反射望遠鏡

かせだ 【加世田(市)】 鹿児島県薩摩(さつま)半島南西部の市。古くから中国その他の海外貿易が盛んで、江戸時代は島津藩の直轄地となり、密貿易が行なわれた。1954年(昭和29)市制施行。人口26,000。東シナ海に臨み、万瀬(まのせ)川の河口南岸の沖積地(ちゅうせきち)上に位置する。産業三大別人口比は34:22:44で、周辺農村地帯ではサツマイモをはじめ、茶・タバコの栽培やウシの飼育が盛んである。しょうちゅう・クエン酸製造・人造宝石加工などの工場があり、加世田鍾(かね)の特産も名高い。鹿児島交通で鹿児島市と1時間半で結ばれ、国道270号線が通ずる。海岸部には吹上浜の砂丘地帯が北へ延びて、吹上浜県立自然公園に指定されている。

かぜたいふう 【台風風】 雨量が比較的小なく、風害だけを起こすような台風。一般に移動速度の速い台風は台風風になりやすい。→雨台風

かぜたちぬ 【風立ちぬ】 堀辰雄(ほりたけお)の長編小説で、その代表作の一つとされる。〈序曲〉〈風立ちぬ〉〈冬〉〈春〉〈死のかげの谷〉の5章からなり、1938年(昭和13)刊行。登場人物は〈私〉と婚約者節子。節子は胸を病み、八ヶ岳山麓(さんろく)のサトトリウムで静かに死を迎える。人間の〈生〉と〈愛〉を〈死〉によって確かめ、昇華させている。詩情あふれる作品

かせつ 【仮説】 ある事象や法則を統一的に説明しようとみなされる言明をいう。科学においては、まだ観察・実験によって確認されてはいないが、それを仮定することによって問題を解決し、知識を体系化することができる。いわば仮の法則や理論をいう。しかし、事実に照らしてその信頼すべきことが明らかにされ、定説として認められているものでも、これと矛盾する新しい事実が現われたときには直ちに退けられなければならない。この意味で法則や理論もまた仮説である。仮説の根本要件は、それ自身もしくはそれから演繹(えんえき)された結論が観察可能な事実と比較できなければならない。いいかえれば、事実に一致す



カセグレン式望遠鏡 堂平天文台(91 cm)

るかしないかを決定することが可能な結論を導かねばならない。なお、ある研究を進めるために、便宜上設定される仮説を作業仮説という。【石倉恆之】

かぜつなみ 【風津波】 ⇒高潮

かせどり 小正月前後の夜、青年または少年が蓑笠(みのかさ)、わらの腰巻などを着て仮装し、数人で家々を訪れ、祝言や唱えごとを述べて祝儀をもらい歩く行事。年の改まった一夜、遠くきたり臨む神が、家々を訪問して新たな年を予祝して回するという信仰に基づくものと考えられる。ほぼ全国的に分布しているが、宮城・福島・山形県などでは〈かせどり〉、宮城県北部・青森県では〈かせぎどり〉、大分・熊本県以南の地方では〈かぜどり〉〈かぜどりうち〉とよんでいる。【直江広治】

かぜのかみ 【風の神】 風をつかさどる神。風の神を祭る奈良県の龍田(たつた)神社では天武天皇以来国家的行事として、しばしば風神祭(かぜのかみまつり)が行なわれた。長野県の諏訪(すわ)大社も風の神を祭るので知られる。民間では、年頭・盆・八朔(はっしつ)・二百十日などに風の神を祭り、暴風の被害のないように祈願する地方が多い。また、新潟県・福島県には、風の神を〈風の三郎〉とよび、6月中旬に仮小屋をこして風の神が通ったと安心する風俗がある。【直江広治】

かぜのまたさぶろう 【風の又三郎】 宮沢賢治(みやざわ けんじ)の長編童話。生前未発表作品。執筆年未詳。台風シーズンに村の分教場に転校してきた赤毛の高田三郎少年をめぐる、一連のできごとの中から、村の子どもたちがしだいに三郎の中に伝説の風の子又三郎の姿を見だしていく話で、賢治の〈イーハトーヴ〉(理想郷)そのものを形象化したような作品。子どもの心理と岩手の自然描写とが

みごとにとけ合い、作者の代表作の一つとされる。【岡田純也】

カゼラ [Alfredo Casella] (1883~1947) イタリアの作曲家。音楽家の家庭に生まれ、早くからピアニストの母親から厳格なレッスンを受け、13歳のときパリ音楽院のピアノ科に入学、その後すぐ作曲を始めた。1915年ローマにもどるまでパリに住み、ピアニストや指揮者として活躍しながら、ドビュッシーやフォーレと知り合い、作曲を続けた。彼の新古典主義的な作品、《子どものピアノ小曲》、舞踊音楽《大きなつば》、オーケストラ曲《スカルラッチィアーナ》は有名。【船山 隆】

ガゼル [gazelle] 哺乳(ほにゅう)類(ほにゅうるい)・偶蹄(ぐてい)目(ぐていめ)・ウシ科(うしけ)・ガゼル亜科(がぜるしやく)の総称。アンチロープのうちの一群で、体は小形か中形で優美。角はコルク栓(せん)抜き状にねじれるか、はじめやや外側に向かって後方に曲がり、先はやや内側に向かい上方に伸びる。雌にはないが、あっても小形。前肢(ぜんし)の毛根部に毛総がある。アフリカ・アジアに広く分布し、ブラックバック・スプリングボック・チベットガゼル・モウコガゼル・グラントガゼル・トムソンガゼルなど多くの種がある。【今泉吉典】

かせん 【河川】 ⇒川

かせん 【化繊】 ⇒化学繊維

かせん 【歌仙】 和歌にすぐれた人のこと。《古今集》の序にあげられた6人の歌人が六歌仙とよばれるようになって以後は、もっぱら特定数のすぐれた歌人の汎称(はんしょう)として用いられる。藤原公任(ふじわら の とうにん)選の三十六歌仙をはじめとして、後六歌仙・中古三十六歌仙・武家三十六歌仙・女房三十六歌仙などがあり、〈百人一首〉もこの形式の一つといえる。また、室町時代に三十六歌仙を句中によみこむ〈歌仙連歌〉が起り、のちにはただ句数が36からなる連歌・俳諧(はいかい)の形式を一般に歌仙とよぶようになった。【平田喜信】

かせん 【寡占】 少数者が市場を支配している状態をいう。特に競争者が二つの経済主体からなる場合を複占とよぶ。現実の市場では、完全競争も完全独占もともに存在することはまれであり、供給者と需要者との関係は完全競争と完全独占の間で多様な形態をとっている。需給の双方がともに1人である場合を双方独占といい、同様に、ともに2人の場合を双方複占、ともに少数の場合を双方寡占とよぶ。また需要者が多数の場合に、供給者が1人であれば供給独占、2人のときには供給複占、供給者が少数であれば供給寡占という。これに対して、供給者が多数であって、需要者が1人の場合には需要独占といい、需要者が2人のときには需要複占、需要者が少数の場合には需要寡占という。

ところで、市場における競争は需要者と供給者との数によってのみ制限されるので

はない。同一産業の生産物が完全に同質的ではなく、商標・デザイン・品質などの面で需要者のより好みを伴うような生産物の差別化が存在する場合には、供給者が多数であってもそれぞれの供給者はなんらかの独占力を行使できることになる。しかし、そのような独占の立場は他の供給者の競争参加を必ずしも排除するものではなく、その意味でかなり不安定な性格をもつものである。このように、供給者が生産物の差別化によってある程度の独占力を保持しようとしながら、結局のところ競争を免れない場合を独占的競争という。特に供給者が少数の場合には、供給寡占を伴う独占的競争が行なわれることになる。競争的産業においては、革新企業のコスト削減作用によって、その属している産業内部で一定の利潤を確保しつつ経営を維持しているような限界企業がしだいに淘汰され、やがて競争産業が寡占産業に移っていく傾向がある。現代では寡占が市場において支配的である。

〔加藤 寛〕

かせん 【貨泉】 中国、王莽(おうもう)のときの貨幣。泉とは銭の意。王莽は理想を《周礼(しゅうり)》に求めて漢の制度を全面的に改正、貨幣制度も漢の貨幣である五銖銭(ごしゅうせん)を廃止して金貨1品、銀貨2品、龜甲(きこう)4品、貝貨5品、布貨10品、銭貨6品、計6種28品の銭をつくった。しかし、あまりにも多種類で、しかも実質価値とかけ離れたものもあり、あまり一般には使用されなかったようである。貨泉は日本にも発見され、考古学的遺跡の年代推定の重要なかきをなしている。

〔米田賢次郎〕

かせんえ 【歌仙絵】 和歌を1首添えて描いた三十六歌仙などを主体とした歌仙の肖像。平安末期から盛んになった歌仙崇拜の風潮と似絵(にせえ)の流行とが結びついて興り、鎌倉期に最もよく行なわれた。藤原信実(のぶみね)筆と伝わる《三十六歌仙絵巻》は代表的である。なお、このほか絵巻・掛幅(かけふく)・屏風(びょうぶ)・色紙など、江戸時代に至るまでの多くの遺品が伝えられている。

かせんおりもの 【化繊織物】 化学繊維による織物の総称。レーヨン織物・アセテート織物・各種合繊織物を含む。化繊織物は天然繊維織物に準じて織り、綿織物ふうのもの、毛織物ふうのもの、絹織物ふうのものなどがある。混紡織物・交織織物が多い。一般に耐久的で取り扱いに便利であることを特色とする。レーヨン織物以外は吸水性に乏しく、親水性繊維(天然繊維およびレーヨン)を混紡しなければ下着に不適。

かせんぎょぎょ 【河川漁業】 河川で営まれる漁業。石狩川のサケ漁業、相模(さかみ)川のアユ漁などが有名である。中国などと比較すると、わが国の河川漁業の規模は小さく、漁獲高もきわめて少ない。しかし、養殖用未成熟ウナギ漁とか、シジミ採取漁とか特異な漁業形態がみられる。近



歌仙絵 小大君 佐竹本《三十六歌仙絵巻》断簡 大和文華館蔵

年、河川水の都市排水・工場排水・農業などによる汚染がはなはだしく、魚族の生活が脅かされているばかりでなく、阿賀野(あがの)川の有機水銀事件のように、魚類汚染から人体への影響さえ出ている。〔石野 誠〕

かせんこうかく 【河川工学】 河川を研究して、一方において洪水(こうずい)の被害を軽減し(治水)、他方河川を人間の生活上に十分に利用する(利水)ための工学である。河川を地学的に研究する河川学、河水を研究する水文学、水の運動を研究する水理学を基礎として、河川工事のために土木工学の諸分野を応用する。

かせんこうじ 【河川工事】 洪水(こうずい)防御(治水)と河水利用(利水)のため河川に人工を加える工事。①水源工：一般に水源は山岳地帯であり、雨量多く、また川が運んでくる土砂の生産地である。したがって、砂防工を施し、植林と山腹工によって降水をできるだけ多く地中に保留するとともに、土砂が流れ出さぬように努める。②河道工：計画した洪水量が安全に流れるように河積をつくり、堤防・護岸・水制・床固めなどの工事で流路を守る。支川の合流を円滑に導き、場合によっては分水路(放水路)を設け、利水のためには各種の取水施設を整える。③流量調節工：上・中流に治水と利水を兼ねた多目的貯水池を設け、中・下流には洪水調節のため遊水池を準備し、また河水の最終利用のためと、海水の逆上防止のために河口近くに河口堰(かこうせき)を設ける。

〔米元卓介〕

かせんし 【化繊糸】 化学繊維の糸。レーヨン糸(人絹糸)・スパンレーヨン糸(スフ糸)・アセテート糸・ナイロン糸・ビニロン糸・ポリエステル糸・アクリル糸など。紡績糸と連続繊維糸とがある。

かせんし 【画仙紙】 宣紙ともいい、雅仙紙とも書く。中国の揮毫(きこう)用の紙で、書・画ともに用いる。色は白くて、柔らかく、よくにじむ。小画仙は幅66cm、長さ135cmである。大きいのは大画仙、さらに大きいのを壁紙という。画仙紙にロールをかけたのを煮埴箋(にやしいせん)、2枚重ねたのを二双紙または青六正(せいろっびき)、それに光沢つけたのを玉版箋という。わが国で模造したのを和画仙という。

かせんじき 【河川敷】 河川の占める敷地であり、その範囲については河川法第6条で規定されている。常識的には川らしい土地の部分である。この部分の私権を認めず、場合によって公園・緑地・運動場などの公共的利用に供することは許されている。

かせんそうこうかい はつ 【河川総合開発】 河川の水資源の開発と流域内のあらゆる分野の開発を総合的に計画すること。水資源の補給源は限られた降水であり、有効に利用することを考えなければならない。場所によっては無貯水池式開発も考えられるが、一般には多目的貯水池方式が普通である。まず、貯水池によって治水の目的を達し、次いで利水(灌漑(かんがい)・発電・上水・運輸・水産物・観光)に極力利用することを計画する。また、その流域の他の資源、たとえば林産物・鉱産物なども道路網の整備により市場性を高め、域内の交通を飛躍的に向上しう。ただし、各流域にはそれぞれの事情により投資可能な限度があるから、いざずらに膨大な計画を立てず、最も経済的に立案すべきである。わが国でも主要河川ごと、都道府県ごと、指定区域ごとに担当部局を設けて開発計画を進めている。〔米元卓介〕

かぞ 【加須(市)】 埼玉県北東部の市。もと加増と書き、江戸時代には中山道(なかやまどう)と奥州街道を結ぶ脇(わき)往還に沿う宿駅であった。1954年(昭和29)加須町・不動岡町ほか6村が合体して市制施行。人口48,000。利根(とね)川右岸に沿う沖積(ちゅうせき)地帯にあり、かつては利根川の本支流が乱流したため河畔砂丘や自然堤防が多い。産業三大別人口比は24:32:44。水田が開け、イチゴ・キュウリの生産やキンギョの養殖が盛んである。東武鉄道伊勢崎(いせさき)線に沿い、国道125号線が通ずる。不動岡には関東三大不動尊の一つがあり、東部の〈加須の浮野と植物〉は県の天然記念物に指定されている。特産はこいのぼり・剣道具など。

かそう 【火葬】 ⇒葬制

かそう 【家相】 ⇒観相術

かそううん 【下層雲】 地面付近からおよそ2kmの高さにある雲。層雲・層積雲(そうせき雲)などはその代表例。しかし、乱層雲・積雲・積乱雲(そうらん雲)などのように雲底は下層にあって、雲頂が中・上層に達しているものもある。

かそうじんぶつ 【仮装人物】 徳田秋声の長編小説(1938)。作者は、一連の心境小説に続いて、妻の急死後〈順子もの〉とよばれる短編小説を20篇ほど発表したのが、これは、その素材となった山田順子との2年余の情痴の世界を晩年に再構成したものである。作家の稻村庸三(ようさう)が、男性遍歴を重ねる作家志望の女性葉子をときに半狂乱に陥って追う経過を、無方法の方法とよばれる円熟した手法で描いている。

かぞうせき 【画像石】 中国において石造の柱、祠堂(しどう)、墓室の壁面に薄く画像

を彫りつけたものをいう。この風習は前漢ころに始まり後漢に盛行した。石材の豊富な山東省(武氏祠堂・孝堂山・沂南(34A)古墓)や四川省に多い。画題としては帝王・烈女・孝子の伝記、神仙図(せんせんず)のほか、当時の日常生活・風俗をうつし、歴史・美術の好資料である。

かそうてきこく 【仮想敵国】 国防上の諸計画を立案するにあたり、その前提として自国の安全に危険を及ぼす可能性があるとして仮に想定する敵国。仮想敵国は地理的・歴史的條件によってほとんど与えられたものとして定まり、現実には潜在的戦争が行なわれている場合が多い。仮想敵国を念頭に置くことは、軍備の規模、陸海空3軍の兵力比率、部隊の装備、戦闘法など一連の問題を具体的に定めるために必要である。したがって、一国の国防体制も仮想敵国の状態によって相対的に決定される。しかし、これはあくまで仮想であって、現実には非友好政策をとることを意味するものではない。

〔森田 哲〕

かそうぶとうかい 【仮装舞踏会】 仮面や衣装などによって特異な扮装(ふんそう)をして行なわれる、社交目的の舞踏会。呪術(じゆつ)の目的をもった原始舞踏、中世の謝肉祭・復活祭の舞踏にその萌芽(はうめい)がみられるが、普通はルネサンス時代の宮廷舞踏会がそのはじまりとされている。特にイタリアルネサンスの宮廷舞踏会は、バレエ発生の母胎となったことで舞踊史上大きな意義をもつ。元来貴族生活と密接な関連をもって発展してきたため、帝政時代のフランス(特にルイ14世時代)・ロシアで流行したが、現在ではクリスマスパーティーなどにそのなごりをとどめている程度である。わが国では1887年(明治20)の鹿鳴館(しかめいかん)時代に一時流行した。

〔高橋 孝一〕

かそうぼ 【火葬墓】 ⇒墳墓

かぞえうた 【数え唄】 数を歌詞の中に織り込んだ歌。日本だけでなく、中国・インド・ヨーロッパなどに主として子どもの遊び歌として散在している。日本のわらべ歌では、手まり歌・お手玉歌・はねつき歌・なわとび歌に多い。数の織り込み方は、数をそのまま列挙していくもの、数の最初のシラブルを利用して地名や人名を列挙したり、意味のあるフレーズ構成にしたりするものなどがある。わらべ歌以外に民謡(民謡歌(みやうか))・盆踊り唄(はうりうた)など・三味線(しゃみせん)歌曲(地歌・端唄(はうた)・義太夫節(ぎだうふし)など)・歌謡曲にある。古くは鎮魂歌(たましづめうた)や《梁塵秘抄(りやうじんひしょう)》の中の四句神歌などの例がある。

〔山口 修〕

かそく 【仮足】 偽足・擬足・虚足などともいう。アメーバのような生活をする動物の細胞に特徴的な構造である。原形質体からの一時的な突起としてつくられ、運動や捕食のために役だつ。仮足には根足状・糸状・葉状・有軸状・放射状などの形状が

ある。仮足をもつ代表的なものは原生動物の根足虫に属するアメーバであり、そのほか、変形菌・アサクサノリの遊走子、多細胞動物の遊離細胞のあるものなどである。

→アメーバ運動 〔蒲原 春一〕

かぞく 【家族】 夫婦を中核として、その近親者とともに営まれる生活共同体(→コミュニティ)をいう。またそのような集団に属している血縁者を家族とよぶ場合もあり、家や家庭と同義語として用いられることもある。このほか統計学上の分析の用語として世帯という概念があり、家族の量的操作に代用されることもある。

家族の研究は、J. バッハオーフェンの《母権論》(1861)やメーソンの《古代法》(1861)から始まる。のちL. H. モルガンの《古代社会》(1877)によって家族の歴史がかなり体系的に示された。これはエンゲルスの《家族・私有財産および国家の起源》(1884)によって強く支持されている。モルガンは社会進化論(→社会進化)的立場を家族の歴史に適用し、人類文化の発展を野蛮・未開・文明の段階に分け、家族の歴史をこの文化段階に対応させて、血族婚家族・半血族婚家族・対偶婚家族・家父長的家族・一夫一婦制家族の過程を経て発展するものとした。現在の考え方は、いくつかの点で批判されている。

家族の形態で最も一般的な分類は小家族と大家族とである。マードックはあらゆる家族形態において、最も普遍的に見いだされるのが、夫婦と未婚の子女とを家族的単位とする核家族であるとした。単位である核家族が種々結びつくことにより拡張家族や複婚家族が形成されるとし、これを整理して、①夫婦とその未婚の子女によって構成される夫婦家族、②夫婦と1人の既婚の子とその妻子および未婚の子女からなる直系家族、③夫婦と複数の既婚の子とその妻子および未婚の子女によって構成される複合家族、という分類法を多く用いている。

家族の構造分析は種々行なわれているが、特に役割構造と権威構造の分析が注目されている。家族成員はそれぞれ、夫・妻・母・子・父というような多角的かつ重層的な地位を占め、それぞれの地位に付着した役割を果たすべく社会的に期待されている。このことによって、一定の行動様式ないし行動基準が与えられ、それぞれのメンバーが相互補完的に協力しうる。また、役割構造をリーダーシップ構造として分析することもある。権威構造は、権威の布置状況によって分析される。家族の権威構造のタイプとして、父権型・母権型、また夫優位型・妻優位型・自律型・一致型などがあげられる。

家族の機能の最も基本的なものは、社会的に認められた夫婦の持続的結合と性的秩序の機能、生殖機能、子女の養育機能などである。このほか、経済的・福祉的・教育的・宗教的・娯楽的などの諸機能がある。特に学習の機能、つまり子女の社会化、パ

ーソナリティ^{*}形成の過程の中で望ましい価値が内面化されるという意味で、この機能は家族と社会との媒介的役割を果たす。全体社会が機能分化し、専門化するとともに、元来包括的であった諸機能がやはり分化し、しかも家族外の諸機関によって代替される傾向が強い。しかし、代替不可能な基本的機能は家族にとどまり、ますます重要度を増している。

生産単位として存在する家族や、統合度の高い地域社会の中での家族は、きわめて凝集力の高い統一体をなしていた。しかし、産業社会の進展の中で価値が多分化し、家族を統合する目的や態度の不一致を生みだしている。成員の諸欲求が家族外の諸機関によって満たされることも家族の凝集力を低下させる原因である。家族を安定的なものにしていく制度の抑圧が薄れ、成員相互の合意がしだいに重要なものになってきているが、このような傾向をバージェス^{*}は制度的家族から友愛家族へということばで表わしている。→核家族 〔国近 浩一〕

かぞく 【華族】 明治維新以後の族称で、士族・平民の上位に位した。1869年(明治2)公卿(ききょう)・諸侯の称を廃し、華族の語を使用した。1884年(華族令)10条を制定して公・侯・伯・子・男の5爵に分け、爵位は世襲された。旧公卿・旧諸侯は家格・経歴・勲功によってそれぞれ授爵した。また新たに国家の功労者またはその嗣子にも与えられ、1884年当時総計508人を数えた。1947年(昭和22)に廃止されるまで、華族は皇室の藩屏(はんぺい)と称され、種々の特権を有した。特に、公・侯爵は満30歳になれば自動的に貴族院議員となり、伯・子・男爵は満30歳で互選で貴族院議員を選出し、衆議院に對置する貴族院議員の半数以上を占めた。第2次世界大戦後、日本国憲法の制定によって1947年廃止。

〔千野 境子〕

かぞくけいかく 【家族計画】 合理的で健全な家庭生活を築くため、それぞれの家庭の事情に応じて子どもの生み方を計画的に調節すること。家庭生活は子どもの数や年齢の差によって左右される面が大きい。家庭生活をよりよくするためには、それぞれの家庭の経済状態や両親の健康上の負担、精神上的負担を考えて、幾人の子供を生んだらいいか、どのくらいの間を置いて生んだらいいか、よく考えることが必要となる。特に母親の健康が出産や育児に耐えるかどうか、母親に育児のための時間的余裕があるかどうかは重要である。病身の母親や職業をもつ母親が育児の見通しもないままに多くの子供をもつことは、母親の健康を害したり、子どもの健全な成長を妨げたりして家庭の苦しみを大きくする。両親の文化的活動のための時間や家庭の経済的余裕を確保することも必要だし、よりよい子供を育て、教育するためにも子どもの数や間隔の調節が望ましい。

家族計画は計画産児ともよばれる。これらは1930年代から使われた比較的新しいことばであってその系譜をたどると、1800年代の新マルサス主義運動で提唱された産児制限・出生抑制・避妊にまでさかのぼることができる。新マルサス主義では、過剰人口が社会の進歩を妨げるという見地から、出生抑制によって人口の過剰化を防ぐための避妊が提唱された。しかし、1900年ごろからは、過剰人口対策としてよりも個人生活の向上を目的として出生抑制が提唱されるようになり、産児調節(パス-コントロール)ということばが使われた。アメリカのサンガー^{*}夫人はこの産児調節運動の推進者として有名である。しかしこの産児調節ということばには多分に新マルサス主義の過剰人口対策的出生抑制の色が残っており、主旨の徹底さを欠くと同時に誤解を招く場合も多かった。そのため、産児調節の過剰人口対策の意味を完全になくし、家庭の健全化に主旨を統一する目的で提唱されたのが家族計画あるいは計画産児ということばである。したがって現在使われている家族計画ということばは、避妊技術による受胎調節を提唱している点では新マルサス主義や産児調節の場合と変わらないが、出生の抑制でなく調節に力点が置かれている。しかし、主旨はそうように変わってきしたが、最近でも人口の多い国や出生率の高い国では、家族計画という名のもとに、過剰人口対策の意味を含めて政策的に推進される場合が多い。第2次世界大戦後の日本や東南アジア・南米諸国にその傾向がみられ、家族計画=産児制限として考えられている面がある。

日本では第1次世界大戦後、吉野(よし)の作造・安部磯雄(あべいそお)・加藤(石本)シズエ・山本宣治^{*}たちによって産児調節が説かれ、サンガー夫人も来日したりしたが、一般的な普及はみられなかった。特に第2次世界大戦前の生めよふやせよの軍国主義的政策の中では、まったくこの運動はおさえられてしまった。しかし戦後はアメリカの占領政策のもとで、急速に運動が繰り広げられ、政府によっても推進された。1947年(昭和22)の薬事法の改正によって避妊薬や避妊器具の製造販売の禁止が解かれ、1948年以降の優生保護法の施行と改正によっては、悪質遺伝の断種^{*}以外にも母体保護のための断種や人工妊娠中絶の許可など大幅な制限条件の緩和がなされた。1954年には日本家族計画連盟が成立し、また国際家族計画連盟への加入が承認され、運動の組織化と活動が進められた。政府は、1952年厚生省から各都道府県に〈受胎調節普及実施要領〉を指示し、保健所を通して企業などに集団指導を行なうとともに、助産婦・保健婦・看護婦を受胎調節実地指導員に養成し、避妊技術の個人指導にあたらせた。これらの施策や運動はマスコミュニケーションによ

る解説などとあいまって、都市から農村にしたいに家族計画を普及させたのである。

戦後の生活の苦しさの中で、国民に家族計画による生活の維持向上を受け入れる条件が整っていたことも急速に家族計画が普及した原因の一つである。ただ日本の家族計画の普及には一つの暗い側面があり、問題点として世界的にも指摘されている。産児調節の方法には、避妊のほか、断種や人工妊娠中絶が用いられているが、わが国の場合、人工妊娠中絶による産児調節を行なうものがきわめて多い。人工妊娠中絶は、母体を傷つけることがあり、死を招くこともある。道徳的な配慮からでもできるだけ避けるほうが望ましい。もともと家族計画は、事前に計画を立て、家庭を合理化し、健全化しようとするものである。その意味からは人工妊娠中絶は避妊の努力のうでで失敗した場合に許されるはずのものである。日本の場合は、それがきわめて安易に、避妊の努力を十分にしないで行なわれていると考えられる。こうした人工妊娠中絶に対する安易な考えや態度は人間の生命に対する安易さにつながり、その一般化は、人間尊重の精神を破壊するものといわなければならない。なお、家族計画は、個人の生活に関係するものであり、個人の意志によってその実行は決定されるべきものだが、社会的観点からみていくつかの問題が指摘されている。第1は家族計画が普及して出生数が少なくなると人口が減少しないかということ。産児制限が過剰人口対策として出発していることを考えると奇妙であるが、現実にはフランスでは第2次世界大戦前に人口の減少が生じ問題化した。日本の場合は、2030年ぐらいにならないと人口が減少しないものと推計されているから問題はあまりないが、非常に遠い将来を考える場合には問題になるであろう。第2は、人口が老齢化することである。人口が減らないとしても、人口の老齢化は起こる。出生数が少なくなれば年齢構成で若い年齢層の占める割合が小さくなり、相対的に高齢層の割合は大きくなっていく。このことは活発な生産活動人口が減り、生産から引退した人口がふえることであり、社会の生産に影響するとともに、老人問題を拡大させる。第3は、生物学的な人間の遺伝がそこなわれて、劣質人口がふえないかという点である。しかしすぐれた質の人間の出生が抑制され、劣った質の人間が相対的に割合を高める逆淘汰(さくたうた)の可能性はある。

家族計画はその歴史の経過からいって避妊などによる出生抑制の面が中心となるが、本来の主旨は出産の計画化にあるのであって、たしかに、人工授精などによって人工的に妊娠出産を行なう場合も、広い意味の家族計画の一環として考えられている。

〔宮川 実〕

かぞく・しゅうざいさんおよびこっかの

きげん【家族・私有財産および国家の起源】エンゲルスの著書。マルクスの死の翌年にあたる1884年に刊行された。マルクス主義の古典的文獻とされる。アメリカの人類学者L. H. モルガン^{*}の《古代社会》を高く評価するとともに、これに対するマルクスの評注に基づいて、史的唯物論の立場から家族・私有財産・国家の形成を述べ、国家の歴史的・階級的性格を明らかにした。古代社会研究・家族史研究でも大きな影響を与えた。〔仲村計美〕

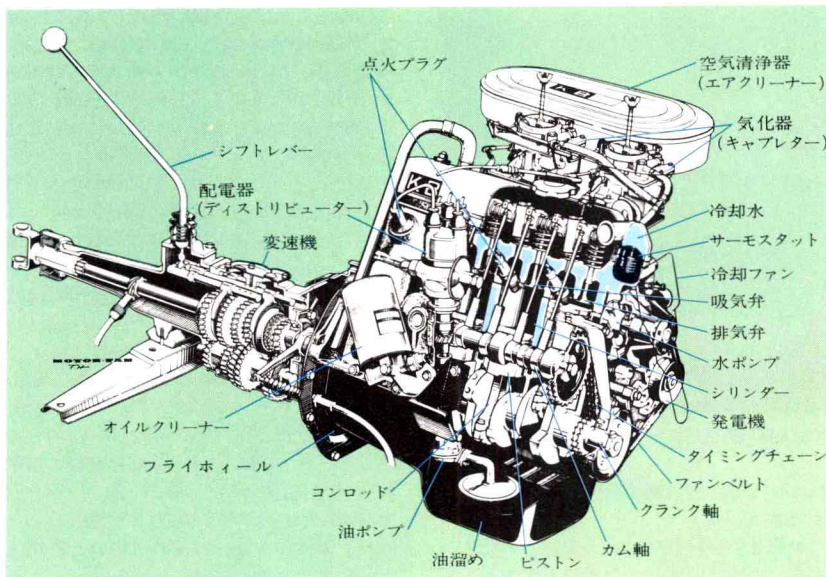
かぞくせいど【家族制度】全体社会や地域社会などが、家族の構造や機能を規律している規範をいう。法律体系のような明確なものから、広く道徳・慣習のような明確に意識されないものまでをも含めた、家族に関する社会的規範である。家族の成員が欲求を充足するための相互行為を規定する外面的行為様式と、それに対応する内面的な態度や観念の体系をも含める。また家族内のみではなくて、外部社会との関連をも規制するものである。いずれにせよ家族制度は、生産様式の発展段階に照応して成立するものであるが、つねに規範と現実の生産様式との間に時間的ずれがあり、矛盾を生みだす。日常用語として用いられるときには、具体的な家族制度、たとえば第2次世界大戦前のわが国にみられたような家族制度をさすことが多い。またより限定的には明治民法に規定された法律上の制度をさすこともある。しかし、特定の家族制度ではなくて、一般的家族制度を問題とするときには、普遍的な類型概念を用いる。血縁関係のあり方によって、夫婦家族制・直系家族制・複合家族制という三つの類型が、また相続のあり方によって、一子相続制・均分相続制、または母権制・父権制などの類型が設定される。この一般的な類型とは別に、具体的な社会にのみ適用される特有な典型(たとえばわが国の家制度)もまた設定される。〔国近浩一〕

かぞくせつちゅうたい【雅俗折衷体】文芸用語。平安朝の和文脈や趣向を取り入れた雅文と、口語文脈や小説的趣向とを混交させた文体をいい、明治20年代の小説に顕著である。たとえば樋口(ひぐち)一葉の《大つごもり》《にぎりえ》の文体など。樋口一葉は、平安期の和歌・物語の浪漫的教養から出発し、しだいに現実に目を開いて、西鶴(さいく)や明治文学の写実、いわゆる俗調を取り入れて、これらの作品を成功させた。

かそくど【加速度】⇒運動

かそくどけい【加速度計】運動体の加速度の大きさを測定するための装置。特に重力加速度を測定するためのものは重力計とよばれる。重力加速度の測定には、多く振り子の振動の周期の測定を利用する。一般の加速度を測定する装置には、磁歪(じわい)現象を利用したものである。

かそくどげんり【加速度原理】所得の



ガソリン機関 トヨタ パブリカ 名称 SLKB-エンジン 形式 4 サイクル水冷直列4気筒

機関が多く、2サイクル機関は、燃料経済性が悪いのでシリンダー容積1,000cm³以下の小形のものにしか使われない。〔斎藤 直〕

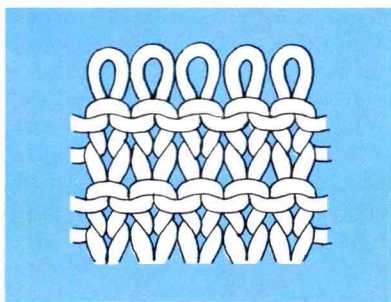
ガソリンビどうしゃ 【ガソリン自動車】ガソリンエンジンを動力として走る自動車。1885年ドイツのゴットリープとダイムラーが世界最初のガソリン自動車の試作に成功して以来急速に発達し、自動車といえばガソリン自動車をさすぐらいで、乗用車・小形トラックの大多数はガソリン自動車である。→自動車

ガソリンぜい 【ガソリン税】 ⇒揮発油税

カーソンシティ 【Carson City】アメリカ合衆国ネバダ州の州都。人口115,000(1970)。州の西端部にあり、南方のタホ湖によってカリフォルニア州と境を接する。州都としては寂しい町であるが、開拓時代には駅伝所として交通の要地を占めていた。

カーゾン・ライン 【Curzon line】1920年4月ソビエト-ポーランド戦争の際に、イギリス外相カーゾンが勧告した両国の国境線。1919年12月連合軍最高会議が決定した。イギリス政府はこれをもってポーランドを援助し、新生ソビエトに干渉した。イギリス・フランスの援助でポーランドが再進撃し、1921年のリガ条約ではこの線以東の西ウクライナ・西白ロシア・ビレンシチナをも獲得した。しかし、1939年にはポーランドがドイツと交戦中にソ連は失地を回復し、ヤルタ会談・ソビエト-ポーランド国境条約(1945)により、最終的にカーゾン・ラインを国境に確定した。〔山県弘志〕

かた 【加太】和歌山市の北西部、紀淡海峡(友ヶ島水道)に臨む加太湾の沿岸地区。加太港は古くから漁港として栄え、タイの1本づりの本場として名高く、また、紀州



ガーター編み

と淡路・四国・山陽地方などを結ぶ要地であり、第2次世界大戦終結まで海軍の要塞(うき)地帯であった。風光美に恵まれ、自然の植物景観がよく保存されており、沖合の友ヶ島(地ノ島・沖ノ島の2島からなる)とともに瀬戸内海国立公園に属する。加太国民休暇村があり、南海電鉄支線と和歌山市と連絡する。また、淡島信仰の本宗で、世俗に婦人病の神として信仰された加太神社(淡島明神)がある。〔浅井得一〕

カーター 【Howard Carter】(1873~1939) イギリスの考古学者・エジプト研究家。1892年ベトリ^{*}のテル-エル-アマルナの発掘に加わり、また、カーナボン卿(きん)の発掘にも参加した。考古学関係の仕事で、エジプト政府に仕えたこともある。彼の最も大きな業績は、1922年、エジプト第18王朝のツタンカーメン^{*}王の墓を発見したことである。この王墓には、多数の副葬品がほとんど無傷のまま残されており、紀元前14世紀のエジプトの宗教史・生活史の解明上、貴重な史料を提供した。〔兼重正夫〕

がた 【潟】 ⇒潟湖(せきこ)

ガーター 【garter】くつした留め。ゴ

ムやゴム入りの布などを輪状にしてくつしたを留める。なお、ストッキングをつる留め金のついた帯状のものはガーターベルトといい、ファンデーションの一種だが、体型を整える機能はない。

かたあしとび 【片足とび】一方の足をあげたまま、一方の足だけでとび走る子どもの遊び。東京付近では、チンチン・チンチンモガモガとよぶ。古くから全国的に分布し、方言も多い。唱えごとを伴うのが多く、鬼遊び・石けり・丸とび・相撲(まぐ)などに利用されて、それぞれ一つの遊び方法となっている。かつては戦場で実用の技芸であったのが、子どもの間に模倣されて、遊びの一つとして残ったものと考えられる。

かたあて 【肩当て】ひとえの長着・じゅばんの肩の裏に、補強のために縫いつけるあて布。多くさらしもめんを使う。透いて見える薄物のひとえにはつけない。

ガーターあみ 【ガーター編み】棒針編みの編み方の一つ。平面に編むときには毎段表編みをくり返し、丸編みの場合は表編み・裏編みを1段おきににする。編み目の組織は表裏の区別がなく、表編みの列はくぼんで裏編みの横に走る列に隠され、うねのように高低ができる。編み地は厚みがあり、たて方向の伸縮性に富み、横方向の伸縮は少ない。地編みとして多く使われ、またメリヤス編みのようにまるまらないので、えり・すそ・ポケット口・そで口などに用いる。工業用機械編み用語ではパール編みとよび、機械で編むときにはこの組織専用のものを用いる。

〔山村あい子〕

かたうた 【片歌】古代歌謡の歌体の一つ。5音・7音一連に7音を加えたく(5・7・7)の音律の歌。古代の歌謡は、はじめ不定形であったが、しだいに5音・7音を基準として、いろいろの組み合わせの歌体を生じている。その最も単純なものが片歌である。相手に呼びかけることが多く、問答歌としてつくられた。片歌の唱和をひとりてつなぐと、六句歌すなわち旋頭歌(せんが)が生まれる。

カタエフ 【Valentin Petrovich Kataev】(1897~) ツ連の小説家。いわゆる同伴者^{*}作家のひとりで、代表作《時よ、進め》は第1次5か年計画の社会主義建設を描いた長編である。また、1905年の革命を背景に子どもたちのめざめを描いた、中編《孤帆は白む》に始まる4部作《黒海の波》などの問題作がある。

かたおかけんきち 【片岡健吉】(1843~1903) 政治家。土佐藩士族の家に生まれる。戊辰(しん)戦争に参加、1871年(明治4)藩から選ばれて軍事研究のため欧米を視察、1872年帰国後西郷隆盛(たかもり)らの征韓論(せいがんろん)を支持して官職を辞任。1874年林有造らと高知に立志社を興し、自由民権運動を展開した。1877年京都臨幸中の天皇に国会開設建白書を提出したが却下された。西

南戦争の際は、反乱に連座した罪で100日の禁錮(けいご)に処せられた。1880年国会開設請願運動が展開された際には、国会期成同盟の総代に推され、その前後大阪愛国社大会議長・高知新聞社社長・自由党顧問を歴任。1885年キリスト教の洗礼を受けた。1887年地租軽減ほか三大事件建白運動の代表として上京し、保安条例違反で投獄されたが憲法発布で大赦。第1回衆議院議員選挙に当選、副議長・議長を歴任した。1902年地租増徴案で伊藤博文(いとうひろふみ)総裁を非難し立憲政友会を脱党した。〔安達淑子〕

かたおかてつべい 【片岡鉄兵】(1894～1944) 小説家。岡山県の生まれ。岡山県立津山中学校を終えたのち慶応義塾(きやうおうぎだく)大学仏文科に在学したが、帰郷して新聞記者生活を転々とし、その間に《舌》を発表。1924年(大正13)横光(よこみつ)利一・川端康成(かわはたやすなり)らと同人誌《文芸時代》を創刊し、新感覚派の論客として活躍した。その後、1927年(昭和2)ごろにプロレタリア文学運動に加わって世人の注目を集めたが、活動のすえに下獄し、転向した。初期の代表作は《綱の上の少女》に収められている。

〔池内輝雄〕

かたおかにぎえもん 【片岡仁左衛門】歌舞伎(かぶき)俳優。上方では最も古い家からで、現在13世。屋号は7世以後松島屋。

①初世(1656～1715) 三味線(しみせん)ひきから俳優になり、敵役(てきやく)の名人といわれた。

②7世(1755～1837) 中絶していた名跡を再興。

③8世(1810～1863) 7世の養子。和事を本領とし、女方・老役(おやく)も兼ねた。

④11世(1857～1934) 8世の4男、明治から大正・昭和にかけ、東京・大阪の両地で活躍した名優。和事・実事のほか新作にもすぐれ、晩年には老役が無類といわれた。

⑤13世(1903～) 11世の長男。

かたおなみ 【片男波】和歌山市街の南部、和歌浦につくられた砂礫(さご)島。和歌浦に注ぐ紀ノ川の分流和歌川の運搬する土砂が潮流によって河口近くにとまり、和歌浦丘陵から南へ約2,500mに及ぶ砂礫が形成されたものである。砂礫の裏側は潟湖(せきこ)となり、ノリの養殖が行なわれている。《万葉集》に歌枕(うたまくら)として《潟を無み》と歌われたのが地名のもとと思われ、古くから詩人に親しまれていた。

かたかけ 【肩掛け】⇒ショール

かたかな 【片仮名】⇒かな

かたがみ 【型紙】衣服を構成するときの基礎となる紙の型。パターンともいう。原型をもとにデザインを製図したもので、紙の上に平面に描かれてパターンとなるもの、布で立体的に操作されたのち平面に展開されてパターンになるものなどがある。個々で製図したもののほか、デザインとサイズの決まった実物大の既製型紙も市販さ

れている。

かたかみのふる 【片上伸】(1884～1928) 評論家・ロシア文学者。愛媛県の生まれ。号は天弦。早稲田(わせだ)大学文科卒。はじめ、《早稲田文学》の記者として自然主義文学のための論陣を張り、明治末期には唯美的・芸術至上主義の態度に転じ、1915年(大正4)のロシア留学を契機に人道主義・理想主義を説き、さらに晩年は唯物史観に基づく文学理論の確立をめざした。主著に《生の要求と文学》《文学評論》など。

かたきうち 【敵討ち】主君や親兄弟などが殺されたとき、報復としてその家臣や子らが相手を殺すこと。仇(あだ)討ちともいう。近代法が制定される以前は古今東西を問わず公然と行なわれた。わが国での最も古い例は、《日本書紀》に記されている、眉輪王(まゆわりのみ)が父のかたき安康天皇を殺した事件であり、鎌倉時代における曾我(そが)兄弟が工藤祐経(けいけい)を討った事件は、《曾我物語》以下各種の物語・能・浄瑠璃(じやうるり)などに語りはやされた。江戸時代では、忠孝という封建的道德や武勇を重んじ名誉を尊ぶ武士道の観念から、合法的なものとして認められ、かつ奨励された。その代表的事件が1702年(元禄15)の赤穂(あこう)義士の復讐(ふくしやう)であった。江戸時代だけでもかたき討ちの件数は百余件あったといわれているが、実際にはこれよりはるかに多くの数になったであろう。はじめは武士のかたき討ちが多かったが、中期以後には百姓・町人などにまで及んだ。かたき討ちは、普通は被害者が討ち手の目上の者であったが、妻・子・弟妹などのためのかたき討ちも行なわれ、特に夫が妻と通じた男を討つことを妻敵(めかたき)討ちとよんだ。また交通の発達していなかった当時としては、国々を回ってかたきを捜すということは非常に困難なことで、運のよい者で2～3年、悪い者は20～30年、はなはだしいのは53年間に本望を遂げたという例もあった。またかたきを捜す途中で病死したり、場合によっては反対にかたきのために殺されたりすることもあり、これを返り討ちといった。また殺されたかたきのかたきとして討ち手がまたかたきとなる《復敵(またかたき)》なども起こったが、これは厳禁されていた。討ち手が幼少であったり、女子である場合、被害者に親密な者が討ち手を助けた。これを助太刀(すけだち)といい、1634年(寛永11)荒木又右衛門(またえもん)の助太刀によって渡辺(わたなべ)数馬が弟のかたき河合又五郎(わいまたごろう)を討った事件は有名である。しかし1873年(明治6)に至ってかたき討ちは法律で禁止されてしまった。〔岡山泰四〕

かたきうちてんがちゃやむら 【敵討天下茶屋聚】歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《天下茶屋》。6幕13場の時代物で奈河龜輔(ながめすけ)・奈河十輔(ながとすけ)らの合作。1781年(天明1)大阪角(かど)の芝居初演。大阪天下茶屋

でのかたき討ち事件を題材にした作品である。東間三郎右衛門(さとうさむらん)に討たれた早瀬玄蕃(げんぱ)の子伊織(いおり)・源次郎の兄弟が、奴(やつ)の弥助(やすけ)とその兄元右衛門とともにかたきを捜して流浪するが、途中愛心した元右衛門に苦しめられながらも、ついに本懐を遂げる。現在では4幕に改められ、元右衛門の演技によって生命を持続している。〔前田慎一〕

かたぎぬ 【肩衣】⇒袴(かみしも)

かたぎぬはかま 【肩衣袴】後世の袴(かみしも)の原形で、肩衣と袴とを組み合わせたもの。肩衣はそでなしの短衣で、素襦(すそ)のそでが邪魔になるので切り落としたものといわれる。そでなしは古くから庶民の間に着用品されており、《万葉集》に《布かたぎぬ》とか、平安・鎌倉時代に《手なし》などの名で知られる。近世以後の肩衣は、小袖(こそで)の上に補助衣的に着用されたものをいう。形も、室町・安土桃山時代ごろの風俗画や絵巻物などに、下郎・小者などが袴の上にそでなしの上衣をつけた姿が見えるが、これが初期の肩衣袴の形態とみられる。江戸時代に武士の公服となって形式化し、肩衣と袴を共布で仕立て、袴へと発展していった。〔勝呂千枝〕

かたぎもの 【氣質物】江戸前期の浮世草子のうち、江島其磧(きせき)・ハ文字屋自笑などによる《一氣質・容気》という題名の作品群をいう。うち《世間子息氣質(よすけかたぎ)》は、町人の子息のさまざまな行状を短編小説的にまとめ、以後、娘・親仁(おやに)・手代などが同じ手法で書かれた。人間の性別・年齢・階級それぞれに共通する性格を取り上げ、やや誇張して教訓的に描いた点はおもしろいが、西鶴(さいかく)の人間描写ほどの細かな鋭い分析はみられない。〔小池正胤〕

かたぎりかつもと 【片桐且元】(1556～1615) 安土桃山時代の武将。通称市正(いちまさ)。近江(おうみ)滋賀(しずけ)の人。豊臣秀吉(よしかみ)に仕え、賤ヶ岳(しずがたけ)七本槍(しちぼんやり)《一賤ヶ岳の戦い》のひとりとして有名。関ヶ原の役後、豊臣秀頼(ひでより)の家老、摂津(大阪府)茨木(いばらき)城主となる。1614年(慶長19)京都方広寺の鐘銘問題などで淀殿(ふでどの)らと不和になり、大阪城を脱出し、大阪の陣の端緒をつくった。夏の陣には徳川方に参加して、家康(いえやす)から所領四万石を安堵(あんど)されたが、まもなく没した。

〔松尾 涼〕

かたぎりせきしゅう 【片桐石州】(1605～1673) 江戸初期の大名。石州流茶道の開祖として知られる。父は片桐貞隆(さだたか)。且元(かつもと)のおいにあたる。初名貞俊(さだとし)、のちに貞昌(さだまさ)と改む。徳川幕府に仕え、1624年(寛永1)、従五位(じゆい)下、石見守(いけのり)に叙任。大和(やまと)(奈良県)小泉一万六千四百石を領した。茶道を千道安の高弟桑山宗仙(そうせん)に学ぶ。号は宗園。1665年(寛文5)、小堀(こほり)遠州(えんしゅう)のあとを受

け、徳川将軍家の茶道師範となる。晩年に隠棲した小泉(大和郡山(やまとこひりやま)市)の慈光院の数寄屋(すきや)・書院・庭園は遺跡として知られ、名勝・史跡に指定されている。〔桑田忠親〕

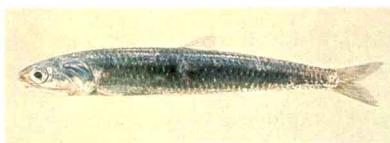
かたく 【花托】花床ともいう。花の柄(花梗(かこう)という)の先端で、かく・花弁・めしべ・おしべのつく部分。一般にはアブラナのように花の柄の先端がわずかにふくらんでいるものが多いが、球状・棒状・扁平(へんぺい)に広がったものなどもある。イチゴ・イチジクなどでは、これが発達してくだものとして食される部分になる。

かたくじんね 【荷沢禅会】(670~762)中国、唐代の禅僧。荷沢宗の祖。おくり名は真宗大師。襄陽(じょうよう)(湖北省)に生まれ、14歳で出家、六祖慧能(えのう)に参じて法を得た。714年南陽(河南省)龍興(りゅうこう)寺に住し、のち洛陽(らくよう)に出て、北宗禅に抗して慧能の南宗禅を宣揚した。743年荊州(けいしゅう)(湖北省)開元寺の般若院(はんにやいん)に住し、さらに曹州(そうしゅう)(山東省)荷沢寺に禅院を建てた。著書に『壇語』『南宗定是非論』『問答雜徴義』などがある。〔田中良昭〕

かたくそうさく 【家宅搜索】裁判所・裁判官または捜査機関が、証拠物件を発見するために住居など使用中の建造物に立ち入って搜索すること。原則として裁判官の発する搜索令状を必要とする。例外として、現行犯の逮捕、逮捕令状の執行などの場合に、司法警察職員などが逮捕の現場において行なう搜索・差し押えは令状を要しない。なお、搜索の範囲は、必要最小限度にとどめるべきことはもちろん、搜索にあたっては、原則として、家人・家主・隣人などの立会人を置くことを要する。夜間(日出前・日没後)の家宅搜索には、令状に夜間でも執行することができる旨の記載がなければできない(例外として、旅館・飲食店など夜間公開され、公衆の出入りする建物については記載がなくともできる)。〔井上公耳〕

かたくちいわし 【片口鱒】硬骨魚類・カタクチイワシ科。15cmほどの海産魚。背は濃い青緑色、腹面は白い。マイワシよりも細長く、口が大きく裂ける。死ぬと背が黒くなるのでセグロイワシともいう。シコイワシという名もよく使われる。日本全土の沿岸に分布し、産額が非常に大きく、重要魚である。煮て干した(煮干し)はだしとして重要であり、そのまま干した(干作り)(ゴマメともいう)は正月に欠かせない。塩干しともよくみかける。新鮮なものをたいて(だんご)にしたものも無い。〔菅野 徹〕

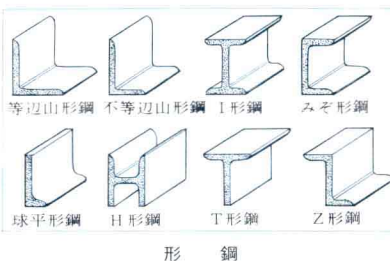
かたくけんたろう 【片倉兼太郎】(1849~1917) 片倉製糸の創始者。長野県出身。1873年(明治6)長野県諏訪(すわ)町で製糸業を始め、1895年片倉組を設立。製糸業を中心にして、薪炭会社・貨物輸送会社など多角経営に乗り出し、有力な地方財閥をつくりあげた。さらに晩年には林業経営に力



カタクチイワシ



カタクリ



形鋼

を注ぎ、全国いたるところに農場を開いた。彼の死後、実弟光治が2世兼太郎を継ぎ、片倉組を改め、片倉製糸紡績株式会社(現社名片倉工業)を設立。〔片岡一郎〕

かたくり 【片栗】単子葉植物・ユリ科。山野の林内に自生する多年草。日本全土・サハリン(樺太(からふと))に分布。長楕円(ちようだえん)形の白色の鱗茎(りんけい)がある。早春に2枚の葉を出し、葉の間から20cmほどの花茎を伸ばして、淡紅色の花を一つつける。花被片は披針(ひしん)形で、強くそりかえる。鱗茎は良質のデンプンを含み、かたくり粉をとる。鱗茎は煮ても食べられ、花や若葉も食べられる。

かたくりこ 【片栗粉】本来は、カタクリの鱗茎(りんけい)からつくったデンプン。5~6月ごろ掘り出し、石うすでひきつぶしてもめんの袋でこし、水洗い・精製してつくる。生産が少量で高価なので一般には用いられず、わずかに東北地方に名栗の材料として用いられているにすぎない。一般に「かたくり粉」として市販されているのは、ほとんどジャガイモのデンプンである。

ガーターくんしょう 【ガーター勲章】イギリスの最高勲章。1348年ごろエドワード3世が制定した。騎士道精神をたたえて、はじめは軍功のあった者に授与され、皇帝と騎士26人に限られていた。19世紀に叙勲の対象は拡大され、外国の元首や皇族にも

贈られることになった。勲章は左ひざにつけるガーター・頸飾(けいしょく)・星章・マントなどからなる。

かたけずりばん 【形削り盤】ラムという水平方向に往復運動をする部分の先端にバイトを取り付けて、工作物の表面を削り取るようにした工作機械。工作物を取り付けたテーブルは、ラムの1往復ごとに横に移動するように送りが掛けられ、この運動とバイトをハンドルで上下に移動させることによって、種々の断面形状のものをくりだす。小物の加工に便利である。

かたこう 【形鋼】特殊な断面形にした棒状の鋼材。構造用形鋼は炭素鋼が大部分で、主として転炉・平炉・電気炉でつくられた鋼塊を圧延して製造される。断面形状により山形鋼(断面形状がL形の鋼で、辺の長さが等しいものを等辺山形鋼、他のものを不等辺山形鋼という)、I形鋼(断面形状がI形の鋼)・みぞ形鋼(断面形状がC形の鋼)・球平形鋼(平鋼の一縁の片側に突起をつけた形の断面を有する鋼)・H形鋼(断面形状がH形の鋼)などに分けられる。〔長谷川正義〕

カタコム ⇨カタコンベ

かたこり 【肩こり】筋肉の過緊張や血行状態の不全などによって、頸部(けいぶ)から両肩や背部にかけて圧迫感・疲労感を覚える症状をいう。おもに自覚的だが、他覚的には症状の認められないことが多いが、僧帽筋上縁部などの筋肉に圧痛が起きたり、硬結(こり)がでたりすることもある。原因としては、単一なくり返し労働の結果起こるものが多いが、そのほか胸部疾患・胃疾患・高血圧症・変形性脊椎症(けいせいつりよう)・骨粗鬆症(こつろしょう)などの際にもみられる。また女性では閉経期のホルモンの不均衡によって起こることが比較的多い。近年は、むち打ち症の後遺症としても数多くみられる。ただ、いわゆる四十肩や五十肩の部分症状としてはあまりみられない。治療としては、温熱・マッサージ・頸牽引(けいけんいん)などの理学的療法や、筋弛緩(きんしかん)剤・精神安定剤・鎮痛剤・末梢(まつしよう)血行改善剤・各種ビタミンなどの投与および適度の体操を行なう。また原因疾患がある場合には、その治療によって回復を図ることができる。〔荻野幹夫〕

カタコンベ [catacombae] 地下につくられた初期キリスト教徒の墓所。ローマ近郊に多くみられるが、ナポリ・シラクサ・小アジアなどにも残る。古くは1世紀ごろからみられるが、3~5世紀が最盛。5世紀以降、墓は地上につくられた。地下10~15mの所に幅1m、高さ2mぐらいの縦横の通路があり、壁面に死体を納める穴が整然とつくられた。市街地の地下につくられたものが多く、元来はローマ政府当局の建設許可によってつくられた。ローマの法律では墓所を犯すことは禁じられていたので、キリスト教徒迫害時代には、教徒はここに

隠れてひそかに礼拝した。アッピア街道にあるサン・セバスチアーノ教会堂のカコンベが特に有名である。壁画には古代神話の人物・動植物などのほか、《旧約聖書》に題材をとったフレスコ画がある。その多くは象徴的な意味をもち、キリストを示す羊飼いや魚、聖霊を示すハトの絵などが多く、中世絵画の象徴主義のもととなったといわれる。〔高山高雄〕

かたさ 【硬さ】 ある物体が他物体によって変形を与えられようとする場合に示す抵抗。ふつう、金属材料のかたさは、材料にある程度の塑性変形、すなわちくぼみを与え、その度合いによって測定される。しかし、変形を与える条件が異なれば、同じ材料でもその値が異なってくるので、絶対単位では測定することができず、測定方法を明記したうえで用いられる比較値である。各種の測定方法が日本工業規格(JIS)で規定されているが、これによって測定した種類のかたさの値の間には近似的関係があるだけで、理論的な関係は明らかではない。一般にかたさの大きいものは摩耗に対する抵抗が強く、摩耗しやすい部分にかたさの大きいものが使用される。鉦物のかたさはふつうモースの硬度計によって測定される。

→硬度計 〔山根雅巳〕

かたさしけん 【硬さ試験】 ⇒材料試験

かたしながわ 【片品川】 群馬県北東部を南西に流れ、沼田盆地で利根(とね)川に合流する川。流程56km。水源は奥日光、尾瀬沼南の山地で、上流には菅沼(すがぬま)・丸沼・尾瀬沼・尾瀬ヶ原などの景勝地やひなびた温泉があり、会津街道が川沿いに尾瀬沼に通じているので、重要な尾瀬探勝路になっている。本・支流を合わせて14の発電所がある。

かたしろ 【形代】 紙や板でつくられた厄(やく)のかげの人の形(ひとがた)。大祓(おほはらえ)をする際、人間の汚れや災いをこれに背負わせ、身代わりとして川や海へ流した。雛(ひな)人形や因幡(いなば)(鳥取県)・美濃(みの)(岐阜県)に残る流し雛もこの形代の一様である。

カタストロフィー 【catastrophe】 ギリシア語のカタkataは上から下への動きの意味を含む接頭語で、ストロフェstrophēは転回の意味をもつことば。〈破局〉〈大詰〉〈大団円〉などと訳される。一般に物事の結末が悲惨な結果に陥ったときに使うが、文学や演劇用語では複雑にかみ合った筋が最後に解決する場面をさす。

かたすべり 【肩滑り】 ウールなどのひとえ長着の肩の裏に、すべりをよくして着やすくするためにつける肩あてで、絹・レーヨンなどすべりのよい布を使う。

かたせ 【片瀬】 神奈川県藤沢市の南部地区で、隣接する鵠沼(かくぬま)とともに湘南(しょうなん)地方の代表的な保養地。相模(さかみ)湾に注ぐ片瀬川の河口付近に中心集落があり、東浜・西浜の砂浜海岸は、〈東洋のマイ



カタコンベ サン・カリストのカタコンベにある石棺《ダニエル・カナの奇跡とラザロの復活》



カタツムリ
(上)ミスジマイマイ
(下)ヒダリマキマイマイ



アミ」とよばれる海水浴場で、西浜には水族館・マリンランドなどの施設がある。江の島の入り口にあたり、小田急電鉄江の島線・江の島鎌倉観光電鉄・国道134号線・湘南有料道路が通ずる。龍ノ口(りゅうぐち)は鎌倉時代の刑場で、日蓮上人(にちれんしょうにん)法難の地、文永・弘安(こうあん)の役の際の元の使節の処刑地として知られ、日蓮宗龍口(りゅうぐち)寺がある。〔浅井得一〕

かたごうむし 【堅象鼻虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科に属するこん虫の総称。いずれも鞘翅のスクレロチン化が進み堅固であるが、カタゾウムシ類では著しい。一般に前胸と中胸の間で内方に著しくくびれた種類が多く、外見上ひょうたん形を呈するものが多い。日本本土には産せず、沖縄諸島に数種が知られ、台湾以西の熱帯地方には多くの種類が知られている。

かたぞめ 【型染め】 文様染め技法の一。①木版・銅板の型を用いて文様を押す、②文様を彫り抜いた型紙を用いて糊(のり)防染して染める、③機械捺染(なっせん)による、の3種がある。①は、正倉院の菟罽(うさぎ)にあり、菟罽防染による技術はわが国に限らずインド更紗(さらさ)・ジャワ更紗などにもみられる。また、木版を使用し染料をすりこむすり絵も型染め的一种で、室町時代の蛸絵といわれる遺品がある。②の方法の発生は不

明であるが、平安～鎌倉時代の罽(はい)の染革に型紙の使用がみられる。室町～桃山時代には小紋系の細かい型染め、散らし文様ふうのもの、色数を多く用いたものなど、江戸時代の型染めの母形があったことが知られる。③は、今日のプリント類である。型染めは型によって織物のように斉(せい)つな文様をつくり、また量産性があるという特徴があり、小紋・中形などはこの特質を生かしている。〔勝呂小枝〕

かたたがえ 【方違】 方室・方忌などともいう。目的地の方角が金神(かみかみ)・天一神(てんいちかみ)・太白神の巡遊の座位にあたり、忌むべき方角として直接その方向に行くことを避け、前夜に別方向に進んで一泊し、翌日その方向から目的地へ行くことをいう。このような例は平安時代の物語や日記類に数多くみられ、幅広く信じられていたが、中世末から近世になるにしたがってだいに形式化した。しかし、地方によってはいままなお信じている。この風習は道教信仰に由来するものである。〔渡辺欣雄〕

かたたんぞう 【型鍛造】 鍛造には自由鍛造と型鍛造とがあり、自由鍛造は簡単な用具を用い、材料を金敷の上で加圧・成形するが、型鍛造では正確な製品形状の上・下金型間に加熱された素材を入れて、ハンマー類やプレス機でたたいて所要寸法のものにする。金型材としては、一般にニッケル・クロム・モリブデン系の合金が多く使用されている。この加工法の利点は、製品形状にばらつきがなく、寸法精度が高いこと、仕上げ面が良好で、成形後の加工をあまり必要としないこと、結晶粒の流れが整っていて、微細な粒子の強靱(きょうじん)な組織が得られること、歩どまり率が高いこと、などである。〔秋枝哲児〕

カタック 【Cuttaek】 インド共和国東北海岸の都市。人口119万4,000(1971)。カルカッタの南西350km、マハナジ川デルタの頂点に位置し、ベンガル湾岸の交通の要点となっている。銀の細線細工で名高い。歴史的にはヒンズーの諸王、ムガル朝・マラータ族により次々と支配され、さらに1803年イギリス領となった。1947年インド独立とともにオリッサ州の州都となったが、1953年に州都は南隣のブバネスワールに移った。〔別技篤彦〕

かたづまもよう 【片棲模様】 下前のつま先だけに、えり下20cmぐらいの高さで、前すそに低く斜めに置いた模様で、江戸の末から明治の末まで女性の紋付き長着に染め、中年以上に使われた。江戸後期のきびしい奢侈(しやう)禁令から目だたぬ模様が好まれたもの。大正以後すたれた。

かたつむり 【蝸牛】 軟体動物・腹足綱・柄眼目のコハクガイ・ベッコウマイマイ・ニホンマイマイ・オナジマイマイの各科に属する陸生の巻き貝を一般にカタツムリ・マイマイ・デンデムシという。北陸・近

畿(きんき)・中国・四国にすむオトメマイマイなどの殻径(かへい) 3 mm内外の小形種から、中部山岳地帯にすむクロイワマイマイなどの殻径 6 cmほどの大形種まで、多数の種類が含まれる。

殻(か)はヒダリマキマイマイなどのごく一部の種類を除いて右巻き。低い円錐(えんすい)形で、そろばん玉のような形のものが多い。わずかであるが高い円錐形の種類もある。殻の色は、濃淡の違いはあってほとんどんがかっ色で、帯のように殻を取り巻く黒いしま(色帯)のある種類が多い。すべて雌雄同体であるが、普通は2個体が交尾して、互いに精子と卵を交換する。しかし、まれに自家受精の起こることがある。体はナメクジ状で、伸縮自在の1対の触角と、その後ろに同じく伸縮自在の1対の長い柄の間に納まった目がある。外套腔(がいどうくう)の一部が肺の作用を営むように変化しているので、直接空気を呼吸する。カタツムリは、気温が降下したり、空気が乾燥すると、殻口に薄い膜を張って活動を停止する。さらに条件が悪くなると、二重・三重に膜を張って眠る。地中の線虫を食う肉食性のベッコウマイマイ科を除き、ほとんど草食性である。

カタツムリにかぎらず、陸産の貝には一般に地方的変異が多く、地方によって普通に見られる種類が異なっていることが多い。カタツムリでは、関東の平地に最も普通に見られるものは殻径 3.5 cmほどのミスジマイマイ、関西では殻径 3.5 cmほどで殻の口に赤みのあるクチベニマイマイが普通種である。殻径 2.5 cmほどで殻の特に薄いウスカワマイマイと殻径 1.5 cmほどのオナジマイマイはほぼ日本全土に分布し、関東・中部の平地には殻径 4.5 cmほどのヒダリマキマイマイも普通にみられる。〔菅野 徹〕

かたな 【刀】 ⇒ 刀剣

かたなかじ 【刀鍛冶】 刀剣を製作する専門鍛冶。刀工・刀匠ともいう。古くは、鉄の生産から刀剣の製作に至るまで一貫作業であったが、のちに製鉄(大鍛冶)と鉄製品をつくる作業(小鍛冶)との分化がなされた。小鍛冶のうち、刀剣専門鍛冶はかなり早い時期に分化し、鎌倉時代には鉄処理の技術の進歩もあって、各地で刀鍛冶は大いに栄えた。特に、山城(京都府)・大和(やまと)(奈良県)・相模(さきま)(神奈川県)・美濃(みの)(岐阜県)・備前(岡山県)が刀鍛冶の生産地となり、「五ヶ伝」といわれた。室町時代には、さらに新しい生産地も生まれ、刀鍛冶の移住や渡り職人的な他地での製作も行なわれ、槍(やり)の製作も多く、束刀・数打物といった粗悪品も目だった。桃山期には、新刀(慶長以後の刀剣)の時期には、大名の城下町に刀鍛冶が集中し、ある者は藩の抱工(かかえこう)となり、京都・大阪・江戸など各地で栄えた。〔小笠原信夫〕

かたなかり 【刀狩り】 中世以来各地で、



カタバミ 花と果実

民間の武器を領主が没収すること。一般には、1588年(天正16)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が命じた刀狩り令が有名。これは全国の社寺・農民から武器を没収し、来世の供養になるという名目で大仏建立(にんぎょう)のくき・かすがいなどの製造にあてた政策である。当時農村の土豪一揆(いっき)などに悩まされていたため、その根絶を図り、さらに兵農分離を促進するために役だった。

カタニア [Catania] イタリア、シチリア島東岸の都市。人口39万8,000。シチリア第2の都市で、冬の保養地として有名。絹・リネンなどの繊維工業や食品加工業が盛んである。天然の良港に恵まれ、オレンジ・レモンなどの果実やイオウなどを集散し積み出している。市は紀元前8世紀に建設されたギリシア人の植民都市であるが、北方にそびえるエトナ山(3,263m)の噴火と地震によってたびたび被害を受け、当時の町並みはほとんど破壊された。現在の市街は18世紀の再建である。11世紀末の寺院や、1434年の創立というシチリア最古の大学など歴史的建造物が多い。〔梶川勇作〕

かたの 【交野(市)】 大阪府北東部、生駒(いこま)山地の北部から交野台地にかけてあり、1971年(昭和46)市制施行。人口60,000。1970～75年の人口増加率は56.5%で、大阪府の市町村中最高である。産業三大別人口比は3:45:52。米・ミカン・モモなどの農業地域であったが、国鉄片町線と京阪電鉄交野線が通じているので、大阪市の衛星都市となった。大阪市立大学付属植物園がある。

かだのあずまろ 【荷田春満】 (1669～1736) 江戸中期の国学者。国学の祖として、本居宣長(もとりののりなが)らとともに国学四大人のひとりと数えられる。京都の伏見稲荷(いなり)神社の祠官(しかん)信詮(のぶあき)の次男。《万葉集》《古事記》《日本書紀》など広く古典を研究したが、その中心は古語の解釈にあった。弟子(でし)賀茂真淵(かものももふち)らにみられるように、《古道》すなわち古代の精神の解明を行なったものではないが、古道を知る基礎作業として語釈が必要であると考えた。彼の思想的立場は十分に知ることはできないが、京都に国学の学校を設立すべきことを幕府に請願した《創学校啓》に邪説横行を正すため「皇国の学」を興し、わが国の古典を研究する必要性を説いている。また《日本

紀神代卷割記(きしんたいまきわりき)》には古代の精神を「本朝の道」(神祇道(かんきどう))という語で表わしている。研究方法でも、儒学の古文辞学派と通じるところもある。上代の古典研究の基礎を開いた功績は大きい。〔熊谷保孝〕

かだのありまろ 【荷田春満】 (1706～1751) 江戸中期の国学者。荷田春満(あずまろ)の養子となり、春満から継承した有職(ゆうしやく)の故実(こじ)の学をもって田安宗武(たんのすけ)に仕官した。《国歌八論》を書いて、整然たる理論で伝統墨守の歌壇に新古今調を称揚し、宗武・賀茂真淵(かものももふち)と論争を交え、歌道革新の風潮を醸成した。

かたはずし 【片外し】 江戸時代中期ごろから御殿(おとまり)の女性が結った髪形。申世以後、貴族や武家の婦人たちは、自然の下げ髪が伝統とされてきたが、民間で前髪・びん・たぼのある結髪(後世の日本髪)が行なわれるようになった。このふうが御殿にも影響を及ぼし、髪を巻き上げて簪(かんざし)で留め置く髪形が生まれた。その簪の一方をはずした形を片外しという。簪を抜けばもとの下げ髪になることが特徴である。

かたばみ 【酢漿草】 双子葉植物・カタバミ科。スイモノグサともいう。日本全土のいたるところにみられる多年草。根の上端から茎が四方に伸びて地面をはい、よくはびこる。葉は長い柄があり、倒心臓形の3小葉からなり、色は赤から緑までさまざまである。春～秋、花びらが5枚の径8mmほどの黄色い花をつける。葉と花は夜間は閉じる。果実は円柱形で自然にはじけ、種子を飛ばす。シュウ酸を含み、酸味があり、料理のつまにする。葉はしんじゅうみがきにも使われた。紋章の酢漿草や剣酢漿草はこの葉をもとに図案化したものである。

カタバルト [catapult] 本来はヨーロッパで古代から使われていた石弓の意。現代では艦船上から飛行機を至近距離で発進させるための射出機をいう。そのしくみは、15～25mの軌条上を走る台車に飛行機を置き、飛行機のエンジンで全力回転させながら滑走車を急速に前方に走行させることにより、飛行機を浮揚させるもの。1920年ごろイギリス・アメリカ・イタリア各海軍で実用化され、わが国でも1928年(昭和3)カタバルトによる最初の飛行機発進が行なわれた。第2次世界大戦までに各種の艦船に広く装備され、動力源としては圧縮空気または火薬が用いられた。戦後は、ジェット機の発進のために、航空母艦の飛行甲板上に長大な蒸気カタバルトが装着されるようになり、一方、航空母艦以外の艦船からカタバルトは姿を消した。〔藤井冬木〕

かたびら 【帷子】 袴(はかま)に対してその片々(かたがは)の意で、ひとえものの総称。申世は麻の汗取りで、束帯や衣冠のはだ着に用いた。色目は夏が赤、冬は白、老人は秋色を着た。大帷子と違って、下襲(したかさね)のえりとそで口を取り付けて双方を兼ねたも